このはな保育園

三重県鈴鹿市

設計・監理／中世古雄也建築設計事務所
施工／杉本組

上／保育室　左下／北東側外観　右下／園庭、テラス、保育室を見る

設計主旨

敷地は、少し歩けば田園風景が広がる静かな住宅地。0〜2歳児をメインに19名を預かる企業主導型の小規模保育園である。「五感を使って学ぶ」という点で施主と同調し、土や植物、石、木などの自然を素肌で感じる“はだし保育”のできる園舎づくりを進めていくこととなった。プランは、南側に開口が取れるよう、シンプルなL字型とした。建物の中央には事務所を配置し、防犯性を高めるとともに、施設内がすべて見渡せるようにした。主要な部屋は園庭を囲むように配置しているので、見守りがしやすくなっている。

保育室の窓をすべて開け放つと、保育室とテラスとは一つの空間のようにつながっており、裸足のまま芝張の園庭へと出ることができる。テラスを通れば事務室や地域交流室へと回遊できるため、子どもたちは園内を自由にのびのびと走り回ることができる。床には厚さ30㎜の杉の無垢フローリングを使用し、床下冷暖房を設置したことで、冬でも木のぬくもりを感じることができる。また、走って転んだときのことを考慮して、テラスにはゴムチップを使用し、園庭とテラスとの段差をできるだけ少なくした。

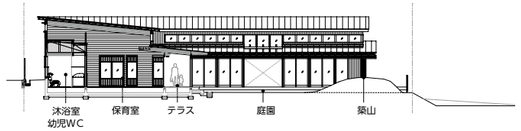
半屋外空間のピロティは、保育機能施設と地域の人々が使う地域交流施設とを程よく分け、その中間領域となって、子どもたちやその家族、地域の人々などを迎え入れる。また、保育室や地域交流室、事務室など主要な部屋は続き間のようにガラス戸で仕切られ、縁側のようにテラスでゆるくつながっている。子どもたちや地域の人々など離れていても人の気配を感じることができ、どこか懐かしさを感じる空間となった。

屋根は二重構造にし、下屋根の垂木梁を天秤として大屋根の柱を受けることで大屋根の力の流れをスムーズに下屋根へと伝達することが可能となり、各室からテラスへと伸びる垂木梁によって視覚的な広がりをもたせることができた。また、無柱空間も確保できた。ハイサイドライトも設けることができ、昼間は照明が必要ないほど明るい園舎となった。

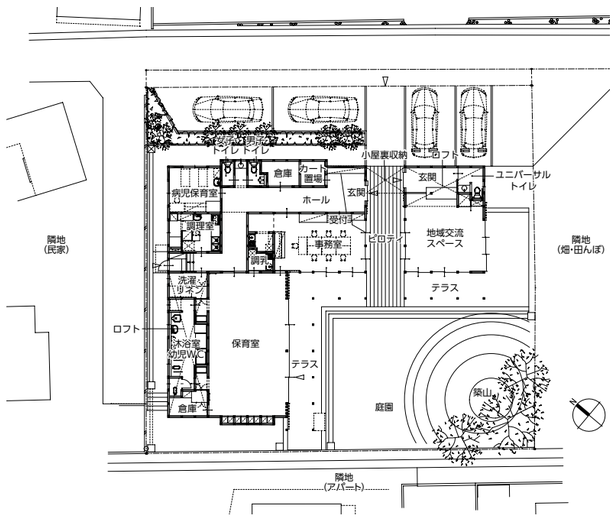
（中世古雄也／中世古雄也建築設計事務所）

テラス

保育室とつながるテラス



断面図　縮尺1/400



配置・1階平面図　縮尺1/400

上／園庭　左下／ピロティ　右下／玄関

このはな保育園　データ

所在地　三重県鈴鹿市南旭が丘3-2132
主要用途　保育園（企業主導型保育園）
建築主　株式会社オフィス桐生
設計・監理　中世古雄也建築設計事務所
担当／総括：中世古雄也　建築・構造・設備・外構：中世古雄也　看板・ロゴ：中世古陽子

中世古 雄也……なかぜこ ゆうや
1981年三重県生まれ。2000年三重県立伊勢工業高等学校建築科卒業、2002年大阪工業技術専門学校建築学科卒業。2013年中世古雄也建築設計事務所設立

大谷 悠貴……おおたに ゆうき
1991年生まれ。2013年大同大学工学部建築学科卒業、同年杉本組入社。現在、同社建築部サブリーダー

構造　希設計　担当／林希代子
設備　森本設備設計　担当／森本祐史
施工　杉本組　担当／大谷悠貴、柏木翔太
設計期間　2018年11月〜2019年2月
工事期間　2019年3月〜2020年3月
［建築概要］
敷地面積　678.39㎡
建築面積　287.50㎡
延床面積　226.23㎡
構造規模　木造　地上1階
寸法　最高高さ／5.205m　軒高／2.500m〜4.928m　天井高さ／2.653m〜4.355m　主なスパン／0.91m×7.28m
地域地区　市街化区域：第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域
［施設概要］
定員　19人
1クラス人数・面積　0歳児・1歳児（ほふくスペース）：9人・30.70㎡　2歳児（保育スペース）：10人・20.79㎡
［主な外部仕上げ］
屋根　カラーガルバリウム鋼板 t0.4 竪ハゼ葺き 1.0寸勾配
外壁　杉板 t15大和張 木材保護塗料塗布
建具　木製建具（米松ピーラー）
外構　亜鉛メッキフェンス・製作門扉
［主な内部仕上げ］
保育室・地域交流スペース　床／杉本実板張り t30　腰壁／杉羽目板張り t12　壁／薩摩中霧島壁
事務室　床／杉本実板張り t30　壁／薩摩中霧島壁　天井／三層クロスラミナパネル t36
ピロティ　床／ウッドデッキ（サイプレス）壁／杉板 t15大和張　天井／杉羽目板張り t15 木材保護塗料塗布

撮影／近代建築社（米田正彦写真事務所）